

まえがき

平成 24 年度から、国家公務員試験のあり方が見直しされて、Ⅱ種試験の名称が**一般職試験**（Ⅰ種試験の名称は**総合職試験**）に変わりました。また、専門（多肢選択式）試験の出題数も少なくなっていて、それまでの 45 題から 40 題になりました。実は、問題数だけでなく、出題割合も変わり、一般職試験では 40 題中、20 題が工学の基礎（数学と物理）、残り 20 題が土木の専門問題となったのです。ちなみに、その前の国家公務員Ⅱ種試験では、45 題中、13 題が工学の基礎（数学と物理）、残り 32 題が土木の専門問題でしたので、国家公務員の一般職試験では、工学の基礎（数学と物理）が占める割合が非常に高くなったと言えます。

一方、地方自治体の採用試験に目を向けると、専門試験の設問数が 30 問の自治体では数学と物理はそれぞれ 1 問ずつ出題され、設問数が 40 問の自治体（多くは府庁・県庁や政令指定都市）では数学と物理を合わせて 10 問程度出題されてきました。しかしながら、一般職試験で工学の基礎（数学と物理）が占める割合が非常に高くなったことを受けて、いずれ地方自治体でも採用試験の出題割合や実施方法が変わるのではと思っておりました。

そんな矢先、実は、平成 25 年度から、“A 日程の採用試験”が変わり、それまで同時開催であった府庁・県庁や政令指定都市と大阪の北摂都市共同採用試験をはじめとする一部の自治体の採用試験が、別々の日に実施されるようになりました。すなわち、公務員を目指す学生は、「40 問出題の府庁・県庁や政令指定都市」と「30 問出題の自治体（大阪の北摂都市をはじめとする一部の自治体）」の採用試験を別々に受験できるようになったのです。もちろん、著者の研究室の学生も両方の採用試験をそれぞれ受験しており、試験後は、府庁・県庁・政令指定都市を目指すなら、土木の専門知識に関する問題に加え、工学の基礎（数学と物理）もしっかり勉強しておいた方が良くと口々に話していました。

著者は、今までに、土木職公務員試験の[必修科目編]、[選択科目編]、[実践問題集 必修・選択科目編]に加え、[数学編]、[物理編]、[実践問題集 数学・物理編]を出版してきましたが、幸いにも公務員を目指す学生からはそれぞれ上々の評価を頂いているようです。公務員試験では過去問と全く同じ問題が出題されることはありません。しかしながら、試験で問われる重要箇所には変わりはありませんので、**実際の公務員試験でも過去問と類似した問題が多く出題されています**。それゆえ、著者は、受験生の第一志望である自治体の設問数も考え合わせ、すでに出版しているこれらの公務員対策本（府庁・県庁や政令指定都市を希望している学生は全 6 冊、それ以外の自治体を希望している学生は土木の専門科目に関する 3 冊）をしっかりと勉強すれば、受験したそれぞれの自治体で合格ラインの正答率は十分に得られると考えております。

実際、土木職公務員試験の対策本を出版してから、著者の勤務する学科でも国家公務員の一般職試験（H23 年度以前は国家公務員Ⅱ種試験）や自治体の公務員試験に多数の合格者を出せるようになりました。しかしながら、私立大学で公務員試験を推奨する以上、「総合職

試験に合格者を出す！」のは悲願です。国家公務員のⅠ種試験が総合職試験に名称変更されてから、難問が少なくなり、“もう少し頑張れば解けるような良問”も多数出題されるようになりました。それゆえ、機会があれば、総合職試験のことも少し念頭に入れて、“公務員試験対策のシリーズ本を、もう一冊だけ出版してみようか？！”という気持ちが心の中にあっただのかも知れません。公務員試験に向けて一生懸命に取り組んでいる熱心な学生から、「総仕上げもかねて、最近出題された新しい問題にもチャレンジして、どれだけ実力がついているのか試してみたい」という要望を受けたのを機に、最後の力をふりしぼって“総仕上げ編”を執筆する決心をした次第です。

ページ数の関係もありましたが、“総仕上げ編”の執筆にあたっては、次のように心がけました。

- ①工学の基礎（数学と物理）と土木の専門問題を含めた6回分の問題構成とする。
- ②第1回～第4回は一般職（国家Ⅱ種）、第5回と第6回は総合職の厳選問題とし、一般職と総合職の問題が混在しないようにする。
- ③それぞれの問題に対して十分な解説を行う。

ただし、あくまでも、本書は実力を試すための総仕上げ編ですので、少なくとも[必修科目編]と[選択科目編]、[数学編]と[物理編]を学習した後に、本書を活用していただきたいと思っています。

還暦を迎える歳になって、そろそろ退職後の生活について考えないといけないと思いつつも、「人から必要とされるうちが華」と自分に言い聞かせ、本書を完成させました。最近は今まで経験したことがないような豪雨や自然災害も多発していますし、橋や上下水道など公共施設の老朽化問題（建設後50年を過ぎた公共施設の長寿命化対策）などもあって、土木職公務員の役割はますます重要になっています。一人でも多くの受験生が公務員試験に合格し、国や地方自治体の土木職公務員として誇りを抱きながら、社会資本の整備や維持管理に従事していただければと心より願っております。

2013年12月

著者